

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

**特許第3733307号
(P3733307)**

(45) 発行日 平成18年1月11日(2006. 1. 11)

(24) 登録日 平成17年10月21日(2005. 10. 21)

(51) Int. Cl.

F I

A 4 2 B 1/04 (2006. 01)

A 4 2 B 1/04

P

A 4 1 D 3/04 (2006. 01)

A 4 1 D 3/04

M

請求項の数 3 (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願2001-279778 (P2001-279778)
 (22) 出願日 平成13年9月14日(2001. 9. 14)
 (65) 公開番号 特開2003-89915 (P2003-89915A)
 (43) 公開日 平成15年3月28日(2003. 3. 28)
 審査請求日 平成15年4月28日(2003. 4. 28)

(73) 特許権者 593095782
 スミクラ株式会社
 岡山県岡山市十日市中町 1 5 番 5 6 号
 (74) 代理人 100077779
 弁理士 牧 哲郎
 (72) 発明者 角倉 健一郎
 岡山県岡山市十日市中町 1 5 番 5 6 号 ス
 ミクラ株式会社内

審査官 島田 信一

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 コートのフード

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

頭部を覆うフードの鰐部分の裏側にテープの両端を止着し、このテープに沿って摺動可能に止め具を取付け、この止め具に帽子の鰐の周縁部を止めるようにしてなるコートのフード。

【請求項 2】

頭部を覆うフードの鰐部分の裏側に、2本のテープを前方ほど間隔が狭くなるように八の字状に対称に配置して、これらテープの両端を止着すると共に、各テープに沿って摺動可能に止め具をそれぞれ取付け、これらの止め具に帽子の鰐の周縁部を止めるようにしてなるコートのフード。

【請求項 3】

頭部を覆うフードの鰐部分の裏側に1本のテープを左右方向にわたしてその両端を止着し、このテープに沿って摺動可能に止め具を2個取付け、これらの止め具に帽子の鰐の周縁部を止めるようにしてなるコートのフード。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、帽子の鰐をコートのフードに止めて帽子とフードを一体化したものである。

【0002】

【従来の技術】

帽子を被ったままレインコートのフードを着用する場合、帽子とフードが一体化できれば、顔を横に向けたときフードが帽子といっしょに動いて、視界の邪魔にならない。

この見地から、図6及び図7に示す従来例では、フード1の鰐部分3の裏側に、別布を縫い合せて半円形の小ポケットPを形成し、この小ポケットPに帽子6の鰐7を差し込むことにより、帽子とフードを一体化している。

しかし、鰐7が小ポケットPに比べて大きすぎると、うまく嵌らないため小ポケットPから外れ易く、逆に鰐7が小さ過ぎる場合も小ポケットPの中で鰐7が遊んでしまう。このように従来のは、鰐と小ポケットPの大きさが合わない限り、両者を充分に一体化できないという問題があった。

【0003】

10

【発明が解決しようとする課題】

本発明は、鰐部分の裏側にテープを止着し、このテープに摺動自在に取付けた止め具に帽子の鰐の周縁部を止めることにより、着用者が顔を横に廻したときに、フードと帽子が一体的に連動して、フード側面で視界が遮られないというフードを提供することを目的とする。

【0004】

【課題を解決するための手段】

上記の目的を達成するために、請求項1の発明は、頭部を覆うフードの鰐部分の裏側にテープの両端を止着し、このテープに沿って摺動可能に止め具を取付け、この止め具に帽子の鰐の周縁部を止めるようにしてなることを特徴とする。

20

請求項2の発明は、頭部を覆うフードの鰐部分の裏側に、2本のテープを前方ほど間隔が狭くなるように八の字状に対称に配置し、これらテープの両端を止着すると共に、各テープに沿って摺動可能に止め具をそれぞれ取付け、これらの止め具に帽子の鰐の周縁部を止めるようにしてなることを特徴とする。

請求項3の発明は、頭部を覆うフードの鰐部分の裏側に1本のテープを左右方向にわたしてその両端を止着し、このテープに沿って摺動可能に止め具を2個取付け、これらの止め具に帽子の鰐の周縁部を止めるようにしてなることを特徴とする。

【0005】

【作用】

本発明の使用に際しては、帽子を着けた状態でフードを被り、帽子の鰐の上にフードの鰐部分を重ね、この状態で、止め具をテープに沿って摺動して帽子の鰐に合わせて位置を調整してから、止め具で鰐を止めて帽子とフードを一体化する。

30

若しくは、帽子を被る前に帽子の鰐を止め具に止めて、予め帽子とフードを一体化しておいてから、帽子とフードを同時に被るようにしてもよい。

【0006】

【発明の実施形態】

以下に図面を参照して本発明の実施の形態について説明する。

図1乃至図4はその第1の例で、図5は第2の例を示す。

1はレインコートやオーバーコートなどのフードで、コート（図示しない）の襟に着脱自在に取付けるようになっている。

40

2は半球状に形成した頭部で、3はその正面前方に突き出るように形成した鰐部分である。

この鰐部分3の裏側に布製のテープ4の両端4A、4Bを縫い付け、このテープ4に沿って摺動可能に止め具5を取付ける。テープ4は、フード1と同じ素材の生地か、既成の布テープにより形成する。ナイロンテープは、滑りが良く使い易い。

図1では、2本のテープ4、4を前方ほど間隔が狭くなるように八の字状に対称位置に配置し各テープに1個の止め具5を取付けるが、図5の例では、1本のテープ4を左右方向にわたしてその両端4A、4Bを縫い付け、これに2個の止め具5を取付ける。

図3は、図2のA-A線断面図で、フード1の鰐部分3とテープ4を三つ巻にした端布10で覆う。三つ巻にした端布10の中に、ドローコード9を芯に入れることにより、鰐部

50

分3の形を良く保ち、フード1が垂れ下がらないようになっている。

図4は、止め具5の拡大断面図である。止め具5はプラスチックの一体成形品で、鏢挟持片5aとテープ挿通溝5bから成っている。テープ挿通溝5bは割れ溝になっていて、この割れ目5cを通してテープ4をテープ挿通溝5bの中に挿入する。このように割れ目5cを通して止め具5をテープ4に装着できるようにすると、止め具が破損したときにテープを外さないでも交換でき便利が良い。

帽子6の鏢7は、その周縁部を鏢挟持片5aに差し込んで挟む。

【0007】

図5は、別の実施例で、テープ4を顔面と平行に、まっすぐに取付けたものである。テープ4には止め具5を2ヶ取付けて、帽子6の鏢7の両周縁部を止める。

10

また、図示していないが、顔面と平行に前後に2本のテープ4を配置し、それぞれ止め具5を2個ずつ取付ければ、鏢7の周縁部を細かく止めることができる。

【0008】

帽子の鏢の大きさ形状は様々である。予め止め具5の位置をテープ4に沿って移動して鏢の周縁部に合わせてから止める。大きい鏢の場合は2個の止め具5を左右に離し、小さい鏢の場合は中央に寄せるなど、適宜に位置を調整する。

【0009】

【発明の効果】

このように本発明によれば、フード1の鏢部分3の裏側に止着したテープ4に摺動自在に取付けた止め具5に、帽子6の鏢7の周縁部を止めることにより、着用者が顔を横に廻したときでも、フード1と帽子6が一体的に連動するから、着用したフード1の側面で視界が遮られることがなく、雨天でも作業し易いという効果を有する。

20

また、テープ4に取付けた止め具5は摺動自在であるから、帽子6の鏢7の大きさに合わせて周縁部を確実に係止でき、多様な帽子に適合できるという効果を有する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の使用状態を示す裏面の全体展開図である。

【図2】本発明のフード裏面の要部拡大図である。

【図3】図2のA-A線断面図である。

【図4】止め具の拡大断面図である。

【図5】別の実施例の要部拡大図である。

30

【図6】従来例の使用状態説明図である。

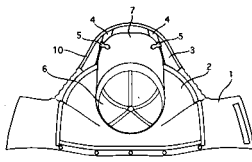
【図7】図6の要部拡大図である。

【符号の説明】

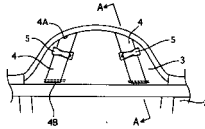
- 1 フード
- 2 頭部
- 3 鏢部分
- 4 テープ
- 5 止め具
- 6 帽子
- 7 鏢

40

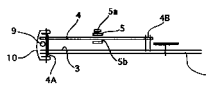
【図 1】



【図 2】



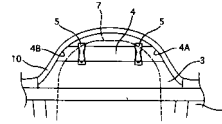
【図 3】



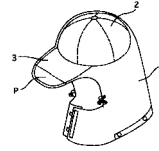
【図 4】



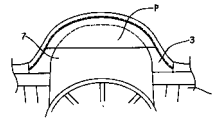
【図 5】



【図 6】



【図 7】



フロントページの続き

- (56)参考文献 実開平04-040708 (JP, U)
実開昭52-071819 (JP, U)
特開2000-248406 (JP, A)
登録実用新案第3044389 (JP, U)
実開平02-025535 (JP, U)
実開昭60-136314 (JP, U)
実開昭59-012826 (JP, U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A42B 1/04

A41D 3/04